

3分でソーシャルワークを語れ ～ロビイストとして～

笹岡 眞弓

3分ではソーシャルワークは語れない！と皆思うかもしれません。そもそも軽々にソーシャルワークを語るなかれ、と憤慨する方もいるかもしれません。私はロビー活動を行うときに与えられる時間は5分でもなく10分でもなく、3分だということを強調したいのです。

ロビイストへの道を皆様に歩んでほしいからです。

何故なら、ロビー活動はソーシャルワークの根幹といってもよいほど重要であるのに、今まであまり顧みられず、時には政治への嫌悪の故か取り組む人たちに、違和感をあらわにする、あるいは遠ざける傾向があるように思うからです。ですからことさらに今こそ伝えなければと思っています。

そもそも当学会はロビー活動を母体として、成長発展してきたといっても良いと思います。原点を見据えることはいつでも重要です。

3分と書きましたが、この時間は誰から与えられるのでしょうか？それは政策を作る人たちから、です。政策を作る人たちとは、第一義的には国会議員、県議員、市区町村議員、であり第二義的には私たちの業界からいえば厚生労働省、各都道府県、市区町村の福祉局や保健医療局に勤務する方です。

再度強調すると、ソーシャルワークは本来、社会変革を目指します。ロビイストとして政治と関わることはソーシャルワーカーの本来業務であり、不可欠の業務であるといっても過言ではないと、私は思います。

目の前の患者・家族への支援に真摯に取り組んでいるソーシャルワーカーには、ロビー活動に費やす時間はない、というのは過去だったら許されたかもしれない言い訳です。が、特に今からのソーシャルワークを担う方々は、職業がなくなるかもしれない「崖っぷち」にいるという危機感を持つ必要があります。AIの方がよほど情報提供には優れているのですから。しかしAIにはロビー活動はできません。

ソーシャルアクションモデルでいうロビイストは、立法に影響を与える人であり、助言を望む議員に対し、修正案や立法戦略までの技術的な情報を与えられる能力が必要とされています。目指すべき頂は高い。けれども目指しましょう！医療制度政策のゆがみに最も早く気付けるのが、保健医療分野で働くソーシャルワーカーです。そこに関わるための能力を養い、ソーシャルワークの重要性をアピールし、患者・家族の生活を支えるしくみを改善する、適材適所にソーシャルワーカーを配備する、予算を獲得する、このような魅力ある活動に一步を踏み出すことが必要です。

アプローチするのはいきなり国会議員では敷居が高いと思うなら、地元の近い政策立案者で気の合いそうな人、ザ・ベストでなければ、よりましベターな人材を見つけるのです。そして患者・家族のために、その人材のロビイストとして機能しましょう。

語る相手の嗜好にあったプレゼンテーションの方法を用い、わかりやすい言葉で、端的に3分でソーシャルワークを語ることから始めることです。与えられる時間は3分であることをくれぐれもお忘れなく。